

地域おこし協力隊“奔走中”

早いもので、立科町に来て1年が経過しました。リンゴやワイン葡萄栽培の手伝いをはじめ、色々なことに取り組む中で急務と感じるのは町の活性化です。経験を生かし、多くのことを町外、県外に発信することを考えていますが、そのためには町の活気が不可欠です。

このほど、中山道芦田宿の「ふるさと交流館」に、町民の皆さんに利用していただく掲示板を作製しました。

「たてしな情報ばんく」ではサークル活動や教室などをご紹介します。また「たてしな すわっぷみーと」は不要になったものを必要な方に譲ったり、探しものを公開してやり取りする掲示板です。

急速なデジタル化により、こうした情報を提供する利便性の高いアプリやサイトはたくさんあります。しかし、あえてアナログな掲示板にしたのは、まさしく交流館を「交流の場」にしてほしいと思うからです。コロナ禍での感染対策は必須ですが、長く住まわれている方と移住者、また移住者同士が知り合い、触れ合う場になればと願っています。町の活性化は、人の動きがあってこそ。ぜひご来館をお待ちしています。



●産業振興担当
芳賀 宏です。

デジタル化推進専門官に渡邊保さん着任

企画課

4月からデジタル化推進専門官に着任しました渡邊保と申します。岩手県盛岡市出身で、ソフトバンク株式会社に所属しながら立科町役場に勤務しております。

東日本大震災の翌年2012年、福島県いわき市の復興プロジェクトに参画した際に東北各地の自治体の職員の方々と触れ合ったことをきっかけに、人口減少などの課題に強い関心を持ち始め、この度、自ら志願して立科町にやって参りました。

地域住民や役場職員の皆さまと会話をさせていただきながら、立科町のデジタル化に貢献する決意でございます。

月に数日は立科町に滞在し、体感して、「この町にふさわしいデジタル化とは何か」を皆さまと一緒に探しながら取り組みたいと考えておりますので、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



渡邊 保さん